

# 万行寺報

Mangyoji Jiho

発行

浄土真宗本願寺派 万行寺

住職 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1

電話 0267-67-2460



## Photo

浅間山は真っ白に冠雪<sup>かんせつ</sup>はしても、しばらくすると地肌が見えてきてしまいます。温暖化といったことが影響しているのか、浅間山を眺めながら思うことがあります。

## 年忌法要表

1 周忌	2018(平成30)年	23 回忌	1997(平成 9)年
3 回忌	2017(平成29)年	25 回忌	1995(平成 7)年
7 回忌	2013(平成25)年	27 回忌	1993(平成 5)年
13 回忌	2007(平成19)年	33 回忌	1987(昭和62)年
17 回忌	2003(平成15)年	50 回忌	1970(昭和45)年

# 住職 法話

## 正像末の三時には 弥陀の本願ひろまれり



お釈迦さまの説いた仏教のあり方がどう変わっていくか、三つの時代区分があると

いわれています。諸説あるようですが、それは、仏さまの教え、悟りが正しく伝わっている「正法」の時代、形ばかりの教えや実践だけの「像法」の時代、そして、教えだけ存在する「末法」の時代とされています。正法と像法の時代は、お釈迦さまが亡くなられてしばらくで終わっていて、その後は末法の時代が長く続くとされています。もうすでに、親鸞さまの時代も含めて、今は仏教という教えだけが残る末法の時代になっています。さらに、お

釈迦さまの教えすら残っていない時代を「法滅」ともいわれます。

シンガーソングライターの松任谷由実さんが、昨年十月に菊池寛賞の授賞式において、歌について印象的なコメントを語っておられました。

「こうしている今も、世界中で年間に五百に近い部族やその言語が失われていっていると言います。歌はそれを口ずさむ人が死に絶えてしまったら消滅します。そう遠くない未来に私が死んで、私の名前が消え去られても、私の歌だけが詠み人知らずとして残っていくことが私の理想です。」

四十五年間、数多くの歌を世に送り出してきた方が、他の言語によって失われつつある大好きな日本語を残していく術を語られています。ユーミンの歌は、私も大好きで自然と口ずさめる歌ばかりです。詠み人不詳になっても、私の歌を後世に残していきたいという強い意志が感じられます。

捉えられていくのかわかりませんが、すでに「お釈迦さま、仏教って何？」と、法滅の時代が見えてきます。

親鸞さまは『正像末和讃』に、「正像末の三時には 弥陀の本願ひろまれり」と、正像の時代を経て、末法の時代だからこそ、弥陀の本願の教えは弘まったと詠まれます。ユーミンは、自然と口ずさめる歌を通して、大切なものを残そうと創作の意欲を語っています。私は、お釈迦さまの存在すら知らない時代になったとしても、末法の世だからこそ仏さまの教えをお伝えすることに意欲を傾けていきたいです。

時代の変化は、大切なものをも失います。昨今は、AI（人工知能）の問題です。すでに、知らないうちにあらゆるものに使われていくことになっています。生活が、AIに支配される時代は迫っています。仏教もAIによってどう

浄土真宗

◎ 仏事のイロハ

一、お仏壇のお飾り

— 仏さまを仰ぐ —

「入仏法要」

お仏壇を迎えてはじめて  
に行うことは？

我が家にお仏壇を迎えて、置く場所も決まって、さて次に何をするか？

当然のことながら、「ご本尊」と西のお脇掛をお仏壇の中に奉懸するのです。浄土真宗では、新しいお仏壇にご本尊をお迎えするときの法要を「入仏法要」と言います。「入仏」と言っても、お勤めする僧侶が、仏さまの「魂」を入れるのではなくありません（そんな大胆不敵なことではできない道理があり

ません。）。仏さまの方から、欲や迷いに翻弄される私たちを救おうと現れてくださるのです。私たちのために、私たちが用意したお仏壇に入ってくださいと思えばよいでしょう。入仏法要とは、仏さま（ご本尊）をお迎えしたことを喜び、仏さまのお徳を讃える法要だということです。

「お魂入れ」や「お性根入れ」とは言いません。「入仏法要」もしくは「入仏式」と言ってください。また「お紐解き」という言い方もあります。これは、本山からお迎えたご本尊のお軸の紐を解いて、お仏壇にお掛けするところからきています。

一方、ご本尊がすでにあって、古いお仏壇から新しいお仏壇にお移りするときや、引っ越しでお仏壇を移動させる

ときなどは、「お魂ぬき」とか「お性根ぬき」とは言わず、「遷仏法要」と言います。お移りいただくのですから「お移徒」とも呼ばれています。

いずれにしても、手次ぎのお寺に頼み、「ご本尊の奉懸や法要をお願いしてください。

新しいお仏壇を安置した初めが肝心です。「お仏壇に仏さまの魂を入れよう」としかねない私たちです。だからこ



そ、「ご本尊をお迎えすることの意味を十分に理解し、仏さまにお入り願うのは、仏さまの真実のお心を我が家で味わうためだったと、肝に銘じていただきたいのです。

ポイント

▼新しくご本尊を迎える時は「入仏法要」

×「お魂入れ」「お性根入れ」

▼ご本尊を移す時は「遷仏法要」

×「お魂ぬき」「お性根ぬき」

「浄土真宗 ◎ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」



～本願寺の本～

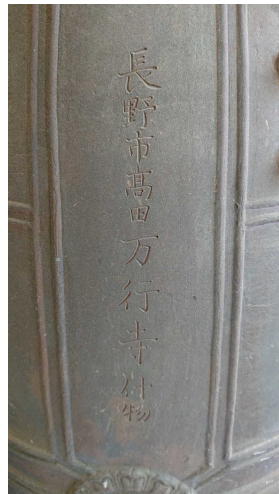
「ありのままに、ひたむきに」

浄土真宗本願寺派 第25代門主 大谷光淳 著  
PHP研究所 発行 648円(税込)



日常生活の中で、悩みや苦しみをかかえながら生きていかなければならぬ。私たちにとって、時代は違っても親鸞聖人の生き方は、多くの人々を惹き

つける魅力あるものと思います。親鸞聖人の生き方の根本にある阿弥陀如来の救いのはたらきをより多くの人々にお伝えし、みなさまがそのはたらきに出会うことで、生かされているいのちを尊び、喜びの中で生きていかれることを願っています。——本書あとがきより



万行寺の玄関内に、喚鐘があります。喚鐘は、儀式の始まりを知らせる合図で打たれるものです。

これは、長野市にあった時の万行寺に吊されていたものです。ある、ご門徒からのご寄進で、万行寺の什物(宝物)です。

この喚鐘を見る度に、吊すことの出来る御堂の建 立を夢見ているところです。

編集後記

表紙に新たに「年忌法要表」を掲載しました。亡き故人を偲ぶ機会を頂きましよう。◆前号では、椅子席の用意のお知らせとともに、お寺でも少人数でしたら法要も出来ることもお伝えさせて頂きました。お読み頂いたように、数人の方の法要をお寺で行いました。お気軽にお使い下さい。◆こしばらくの寺報を振り返ってみると、内容が代わり映えしていないと反省しているところ。以前のよう、教えだけではなく、お寺の情報も載せながら充実した紙面を取り戻したいと思えます。

